

社交は人生の目的

人間というものの本質は、人と人との関係性の中にある。それゆえ福澤諭吉が *social* に人間 *じんかん* 実際という訳語を与えたのだということをおぼろげに前本コラムに書いた。フランシス・フクヤマの TRUST (邦訳「信」無くば立たず) を読んでいたところ、次のような文章に出合い、彼も人間を福澤と同じようにみているのだと思わされた。「人間は、孤立しては自己を完成することができない。親孝行や慈悲の心など人間にとって最高の徳は、他の人間との関係の中で実践されなければならない。したがって、社交性は個人的目的を達成するための手段ではない。それ自体が人生の目的なのである」。

社交が人生の手段ではなく目的だというのは、自分が道徳的な存在であることを他者から認められたという欲望をもち、この欲望こそが人間を人間たらしめている本質的なものとフクヤマが考えているからである。「認知を求める願望は人間心理のうち、このうえなく強いものだ」とも彼はいう。私どもは、他者の自分に対する認識、評価、対応に応じ

渡辺利夫 (公益財団法人オイスカ会長)

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了、経済学博士。筑波大学、東京工業大学教授、拓殖大学学長、総長、学事顧問などを歴任(二〇一〇年十一月退任。二〇一七年六月より現職)。

て自分とはどういう存在であるかを悟らされ、そうして人生を紡いでいく存在なのであろう。

テレビでコロナ禍の報道をみてみると、渋谷のスクランブル交差点あたりに群れる若者や、繁華街の飲み屋に集う中年の男たちの映像をバックにして、緊急事態宣言を何度繰り返してもこの「人流」や「滞留」は容易には減少しないと嘆き節で語るのにお決まりである。新型コロナウイルスは人から人へと広がる飛沫感染であるから、人と人との接触を回避するために「密」を抑制することが重要な策であることは確かであろう。とはいえ、他者と会い話らい共食することは人間の根源的な欲望であり、そもそもこれなくしては人間は人間ではあり得ない。オリンピックもパラリンピックもほとんど無観客で乗り切ることができた。関係者の心労はいかばかりのものだったか。しかし、人流や滞留の抑制もこのあたりが限界界内ではないか。ワクチン接種をさらに加速化できないものか。接種会場に向けて長い行列をつくる若者の姿をみていると何とも切ない。